

4年 わたしの地図活用

福岡県を紹介しよう —デジタル地図帳を活用して— 福岡県公立小学校 教諭

1 はじめに

小学校学習指導要領で示されているように、第3学年及び第4学年では地図や各種の具体的な資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたり、調べたことや考えたことを表現したりする力を育てることが大切である。

本稿では、『デジタル教科書 楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下、『デジタル地図帳』）を活用した実践について提案する。

単元名は「福岡県をしょうかいしよう」として、5時間で構成した。この単元は、小学校学習指導要領社会編 第3学年及び第4学年の内容（6）のイにあたる。単元計画は、以下のとおりである。

学習活動（計5時間）	配時
1. 福岡県の概要を知り、学習課題「福岡県のいろいろな場所を地図旅行してしょうかいしよう。」を設定する。	1
2. 福岡地区、北九州地区、筑後地区、筑豊地区の四つの地区から一つを選んで調べて、紹介カードにまとめる。	2
3. 調べたことを話し合い、紹介する	2

『デジタル地図帳』の使用環境は電子黒板を想定し、授業者が児童に説明・指示をするほか、児童がみずからペンツールを使って発表する場面も設けた。

2 『デジタル地図帳』活用への関心を高める

まず、『デジタル地図帳』のp.16～18の「日本列島」を白地図表示し、「福岡県はどこにあるでしょう。」と問いかける。そして、子どもたちが答えた場所を地図表示しながら確認していく。次に、p.21～22の「福岡県とそのまわり」のページを提示し、福岡県の中で行ったことがある場所を

発表させ、紹介させていく。そして、「福岡県のいろいろな場所を地図旅行してしょうかいしよう。」という学習課題を設定する。

さらに、『デジタル地図帳』の「写真資料」のページでおもな都市の紹介をした後、「統計」のページを使って福岡県の概要についても紹介する。そして、福岡県は、①福岡地区、②北九州地区、③筑後地区、④筑豊地区の大きく四つに分けられることを知らせ、自分が調べる地区を決定させる。地区ごとの地形やおもな産業の概要は次のとおりである。

①福岡地区

海に面しており、古い時代から大陸と交流があり、多くの歴史と文化がある。九州の中心都市である福岡市があり交通の便がいい。

②北九州地区

工業都市から商業・観光都市へと変わっている。門司港を中心としたレトロ地区などは歴史的な価値がある。

③筑後地区

筑後川と耳納連山に囲まれた肥沃な土地で農業がさかんである。また、有明海に面したまわりでは、水産業や観光もさかんである。

④筑豊地区

かつては炭鉱でにぎわっていた。炭鉱が消えた今も炭鉱文化が随所に残る。山に囲まれており、豊かな自然や史跡が残っている。

3 各地区について調べ、紹介カードにまとめる

『デジタル地図帳』には、「都道府県をしょうかいしよう」のページがある。大阪府を例に都道府県の特徴のつかみ方や、紹介カードの作成の仕方が5ステップで説明してある。この手順を参考にして作成することを児童に示す。

自分が調べる地区について、観光パンフレット「ふくおか魅知の旅」を中心に、図書資料やインターネット等を使って調べさせる。

このときに、自分たちが調べる四つの地区の生

産物や名産品を調べるために地図帳を活用する。



「都道府県をしようかいしよう」の画面

さらに、調べる地区の土地のようす、交通やまち、産業のようすを紹介カードのコメント欄に書き込ませるようにする。

4 調べたことを吟味する

調べて紹介カードにまとめさせた後、同じ地区を選んだ子ども同士でグループをつくって話し合いをさせる。そのときの視点は、次の三つである。

① 紹介するもの（三つ）

② 紹介する順番

③ 地区のキャッチフレーズ

①については、それぞれの地区の概要に合うものはどれなのかを話し合う。たくさんの中から三つを選ばせることで、産業のようすについて理解が深まっていく。

②については、地図を見ながら紹介していく順番を考えさせる。例えば、鉄道に沿って地図旅行しながら紹介したり、人口の多い都市から紹介したりなどが考えられる。

③については、短くまとめたキーワードにして紹介することで、それぞれの地区の特徴を明らかにさせていく。

5 調べたことを紹介する

調べて話し合ったことを、それぞれの地区ごとに紹介していく。そのときに、『デジタル地図帳』の拡大機能とペンでの書き込み機能を活用して交通ルートをペンで書き込みながら紹介させる。

(紹介例)

キャッチフレーズ【自然と歴史と文化の福岡】

① 糸島の野菜

(糸島産野菜としてブランド化している。)

② 博多港・福岡空港

(福岡の玄関口として多くの人たちが利用している。)

③ 九州国立博物館

(九州で唯一の国立博物館。歴史的・文化的)に価値ある物が多く展示されている。)



調べた交通ルートをペンで書き込む

子どもたちは、自分たちが住んでいる地域から地図旅行しながら紹介をしていく。このときに、有料道路に着目させて交通ルートをペンで書き込むことで、福岡市の交通の便のよさを理解させる。また、博多港や福岡空港のようすを紹介することで、多くの人が集まるという特徴の理解を深めることができる。最後に、ゴールの九州国立博物館は、自分たちが住んでいる福岡には多くの歴史と文化があることを知り、地域社会への誇りと愛情を育てることができると思う。

6 おわりに

地図帳には多くの情報があるが、十分な活用ができていないことが多い。デジタル社会に生きる子どもたちは、使い方を知れば大人が驚くほどに使いこなすことができる。『デジタル地図帳』には、そのような子どもたちの可能性を引き出す魅力があると思う。